

平成29年12月21日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

議案

番号	件 名	主 管 課
1	山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）	教 育 政 策 課

議案第1号

山口県教育委員会表彰規則による表彰について(報告承認)

山口県教育委員会表彰規則(昭和61年山口県教育委員会規則第6号)第2条の規定に基づき、平成29年度教育功労者を次のとおり決定したので報告し、承認を求めます。

平成29年(2017年)12月21日

山口県教育委員会
教育長 浅原 司

永年精勤の部(表彰規則第2条第6号)

所属名	職名	氏名	勤務年数	備考
山口県立 奈古高等学校	教諭	内田 紀	25年	平成29年12月17日 死亡退職
宇部市立 川上小学校	教諭	岩崎 左敏	32年	平成29年12月19日 死亡退職

報告事項

番号	件 名	主 管 課
1	平成29年度山口県学力定着状況確認問題の結果について	義 務 教 育 課
2	平成30年3月新規高等学校等卒業予定者の就職内定状況等について	高 校 教 育 課

平成29年度学力定着状況確認問題結果について【概要版】

山口県教育庁義務教育課

平成29年12月

1 実施概要

(1) 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

(2) 実施期日

平成29年10月25日(水) ※学校の状況に応じて、10/23~10/27の期間に実施

(3) 実施対象及び実施内容

①小学校

学 年	実施人数	内 容 (時間)	
第3学年	10,945人	国語、算数(各40分)	及び質問紙
第4学年	11,116人	国語、算数(各40分)	及び質問紙
第5学年	10,988人	国語、算数、社会、理科(各40分)	及び質問紙
第6学年	10,873人	国語、算数(各40分)	及び質問紙

②中学校

学 年	実施人数	内 容 (時間)	
第1学年	10,578人	国語、数学(各45分)	及び質問紙
第2学年	10,687人	国語、数学、社会、理科、英語(各45分)	及び質問紙

2 教科の問題に関する結果

(1) 平均正答率

①小学校

	国 語	算 数	社 会	理 科
第3学年	61.1%	67.5%		
第4学年	62.6%	64.9%		
第5学年	54.0%	55.5%	56.6%	65.3%
第6学年	58.6%	58.8%		

②中学校

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
第1学年	64.7%	52.7%			
第2学年	63.5%	44.4%	38.2%	41.7%	56.2%

(2) 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的・基本的な内容を問う問題については、おおむね成果や改善傾向が見られる。
- 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や記述式の問題には、依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題
小学校	国語	○基本的な漢字を正しく読むこと ○グラフや表から必要な情報を読み取ること	●同音異義の漢字を正しく書くこと ●接続語を用いて、文を分けること ●目的や意図に応じて、中心となる語や文を捉えること ●目的や意図に応じて自分の考えをまとめること【問題例③】
	算数	○基本的な四則計算をすること【問題例②】 ○数量関係や図形の基本的な内容について理解すること	●体積についての量感 ●割合の内容を理解すること ●数量の関係を数直線に表すこと ●問題場面について情報を整理し、理由や方法等を説明すること
	社会	○商業施設の特色等、身近な学習対象について理解すること ○地図の基本的な約束事について理解すること	●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報をもとに説明すること ●条件に合う都道府県の名前を答えること
	理科	○条件に沿った対照実験の方法について理解すること ○メダカのかからだのつくりとその役割について理解すること	●太陽の動きと方位を日当たりと関連付けて植物が成長する場所を選択すること ●正しい方位磁針の使い方について、誤った使い方を改善するための方法を記述すること
中学校	国語	○文脈に即して漢字を正しく読むこと ○文脈に即して接続詞を適切に使うこと ○話し合いの話題や方向性を捉えて的確に話したり、相手の発言を聞いたりすること【問題例①】	●事象や行為などを表す多様な語句を理解すること ●自分の意図や考えについて根拠をもとにして説明する等、条件に即応して書くこと
	数学	○小数の減法の計算をすること ○比例のグラフの特徴を理解すること ○事象における数量の関係を見出すこと	●基準量を求めること【問題例④】 ●割合を用いて数量の関係を表すこと ●文字を用いた式で表すこと ●日常的な事象を数学的に解釈して説明すること
	社会	○世界地図から必要な情報を正しく読み取ること ○世界各地の人々のくらしの様子に関する情報を正しく読み取ること	●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明すること ●示された条件に従って、社会的事象の特徴等について説明すること
	理科	○実験結果の表から反射の法則を見出すこと	●物質の状態をモデルで表すこと ●数値を条件に合わせて利用すること ●密度の意味と、密度の違いを利用して物質を特定すること
	英語	○英語を聞いて、絵の状況を適切に表しているものを理解すること ○英文を読み、内容から考えて適切な単語を選ぶこと	●まとまった英文の内容を正確に読み取ること ●前後の英文から意味のつながりを考えて、適切に英語でやり取りすること

(3) 特徴的な問題例

○成果や改善傾向の見られた問題

【問題例①】国語 中学校1年 5三

話し合いの話題や方向性を捉えて的確に話したり、相手の発言を聞いたりすること **正答率 86.2%**

話し合いの中で、他の人の意見をまとめたり、話し合いの方向付けをしたりする発言をしている人の名前を書きなさい。

(【話し合い場面の一部】から抜粋)

鈴木 「萩往還」の一部を歩いて体験してみるっていうのは、みんな賛成なんだね。せっかく歩くのなら魅力を味わえるようなところを歩きたいよね。それを決めようよ。

【正答】 鈴木さん

【問題例②】算数 小学校6年 2(1)

末尾のそろっていない小数の減法の計算をすること **正答率 82.5%**

次の計算をしましょう。

$$7.38 - 3.8$$

【正答】 3.58

全国調査及び他学年における同様の問題の正答率

H27 全国調査 : 75.6%

H28 確認問題(小5) : 74.5%

中1 1(1) : 89.6%

●課題の見られた問題

【問題例③】国語 小学校5年 4三

目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くこと **正答率 25.7%**

全国調査における同様の問題の正答率

H29 全国調査 : 35.3%

小松さんたちは、水道局をたずねて聞いた【水道局の方のお話】をもとに、【節水作戦への協力のお願い】の[]の部分を書いています。次の[]の中の **B** に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ・数多くのポスター作りが必要な理由を【水道局の方のお話】から二つ取り上げて書くこと。
- ・【節水作戦への協力のお願い】にふさわしい表現で書くこと。
- ・書き出しに続けて、五十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。

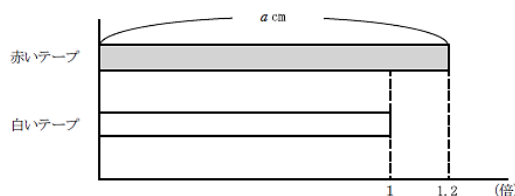
【正答例】

できるだけ多くの人に見てもらふことや、水を使う場所ではどこでも節水を思い出せるようにすることが大切だからです。

【問題例④】数学 中学校1年 4(2)、2年 2(5)

基準量を求めること **正答率 中1 : 49.2%、中2 : 48.3%**

次の図のように、赤いテープの長さは白いテープの長さの1.2倍でした。



- ア $a - 0.2$ (cm)
- イ $a \div 1.2$ (cm)
- ウ $a \times 1.2$ (cm)
- エ $a \times 0.2$ (cm)

赤いテープの長さを a cm とするとき、白いテープの長さを表す式を、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

【正答】 イ

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

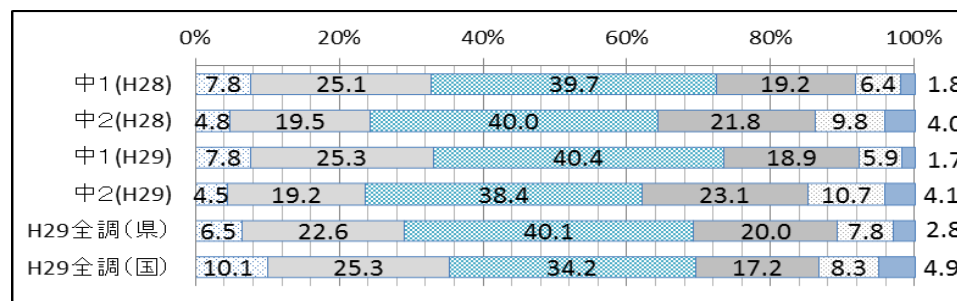
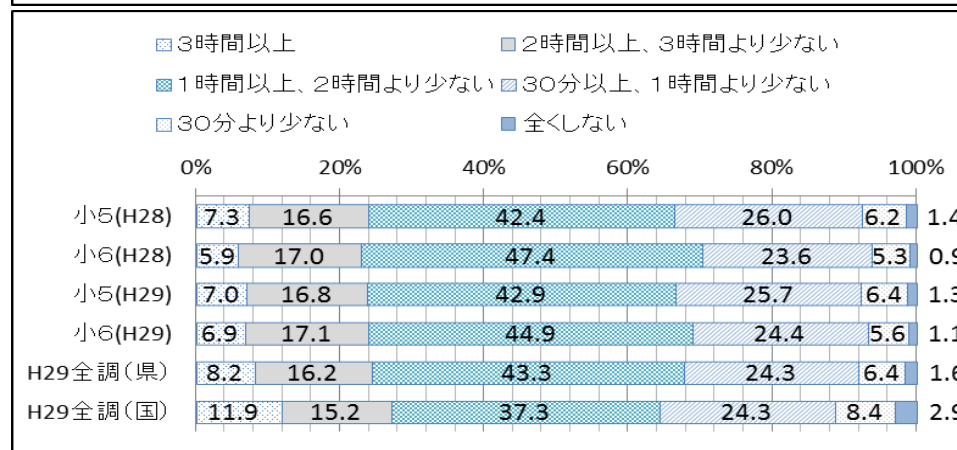
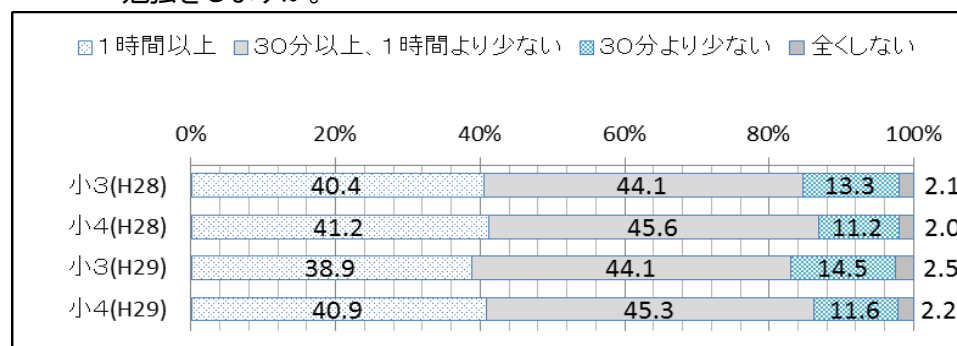
【質問紙調査結果から見られる特徴】

- 学校の授業以外に1時間以上勉強している児童生徒の割合を前年度の同集団の割合と比較すると、多くの学年で前年度より増加しており、学習意欲の向上や家庭等での学習習慣の定着がうかがえる。家庭等で計画的に学習を進められるような児童生徒への働きかけを行うなど、主体的に家庭学習に取り組める指導の工夫を促進するとともに、引き続き家庭との連携の充実を図る。【質問①②③】
- 授業の中で課題に対し、自ら考え、取り組んだと肯定的に回答した児童生徒の割合は、前年度に比べ増加傾向にある。一方で、授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしていると回答した児童生徒の割合は学年が上がるにつれ、減少している。新学習指導要領の全面实施を見据え、求められる資質・能力を確実に育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進する。【質問⑥⑦】
- 授業の目標の提示や授業の振り返りの実施について、肯定的に回答した児童生徒の割合は高いものの、前年度に比べ減少傾向である。学習の見通しを立てたり振り返ったりすることで、児童生徒が授業で主体的に学ぶことができるよう、基本的な授業の進め方を再確認し、学校全体の取組として定着するよう、引き続き推進していく。【質問④⑤】

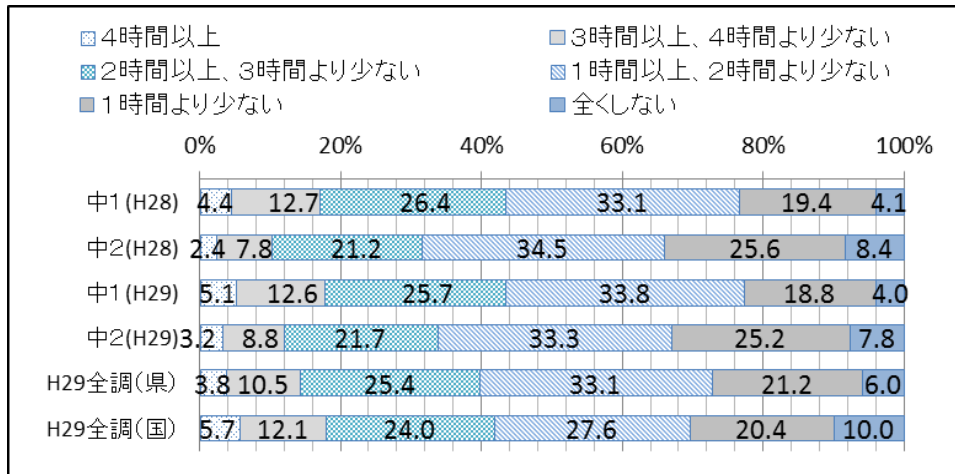
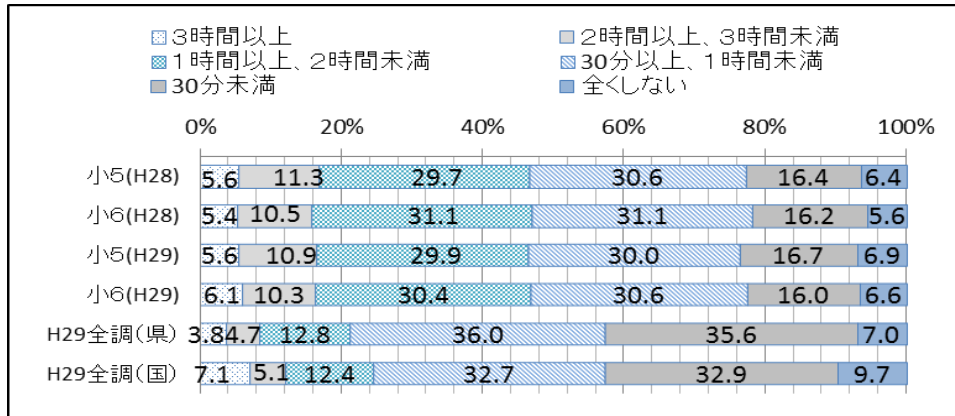
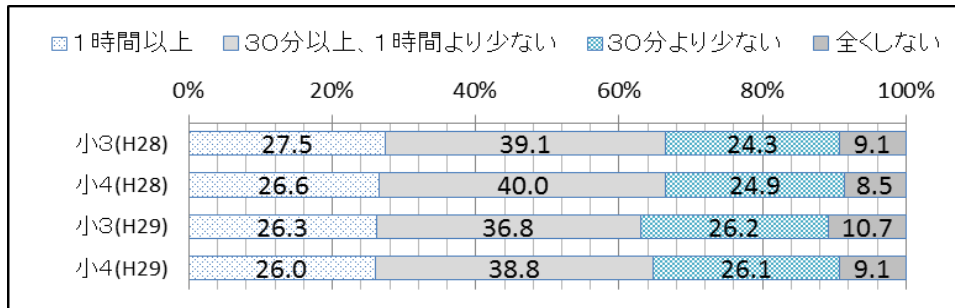
※ 本資料のグラフは、学年進行による推移や、平成28年度の調査結果と比較した状況が把握できるよう、平成28年度と平成29年度の結果をまとめて掲載しています。

※ 「全調」は、平成29年度全国学力・学習状況調査における山口県及び全国の結果を示しています。

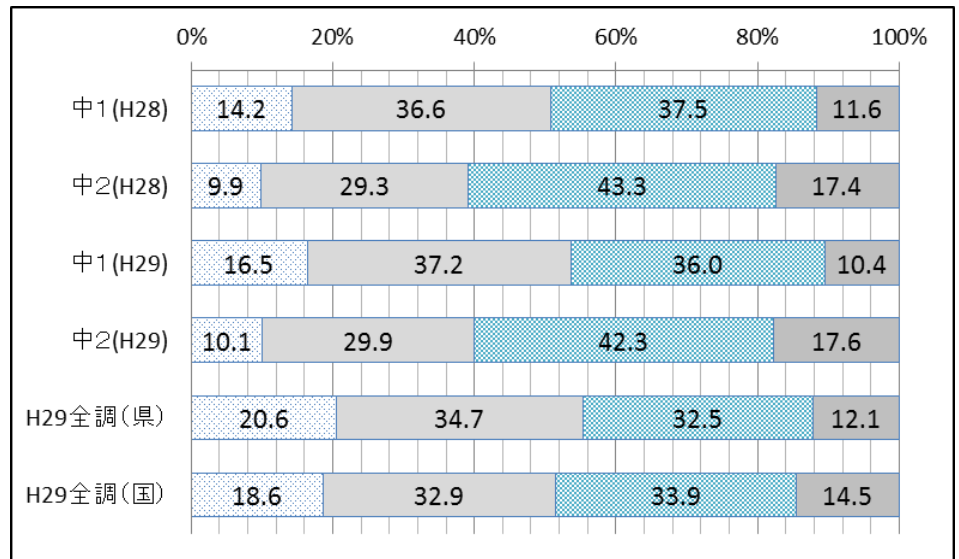
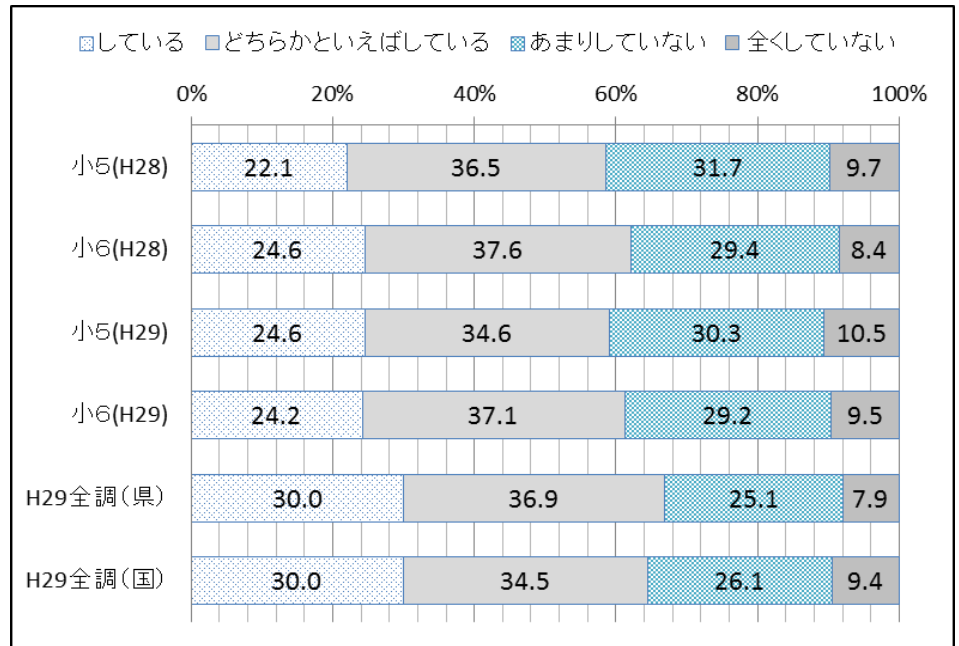
【質問①】学校の授業時間以外に、普段（平日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



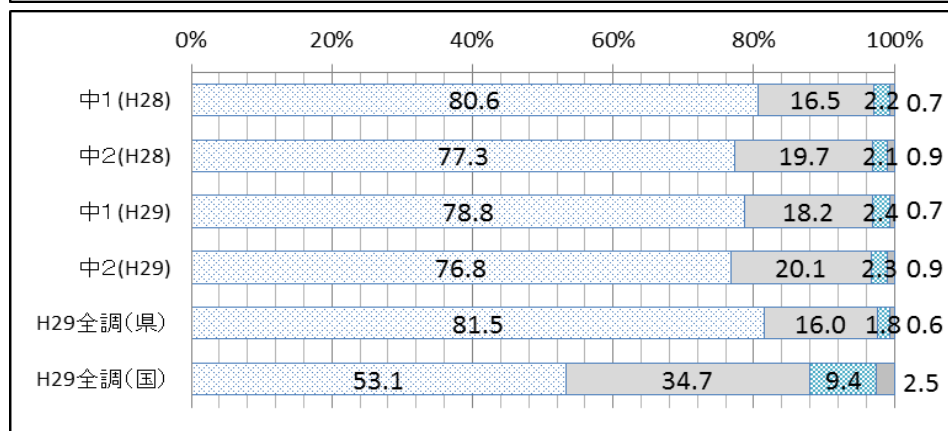
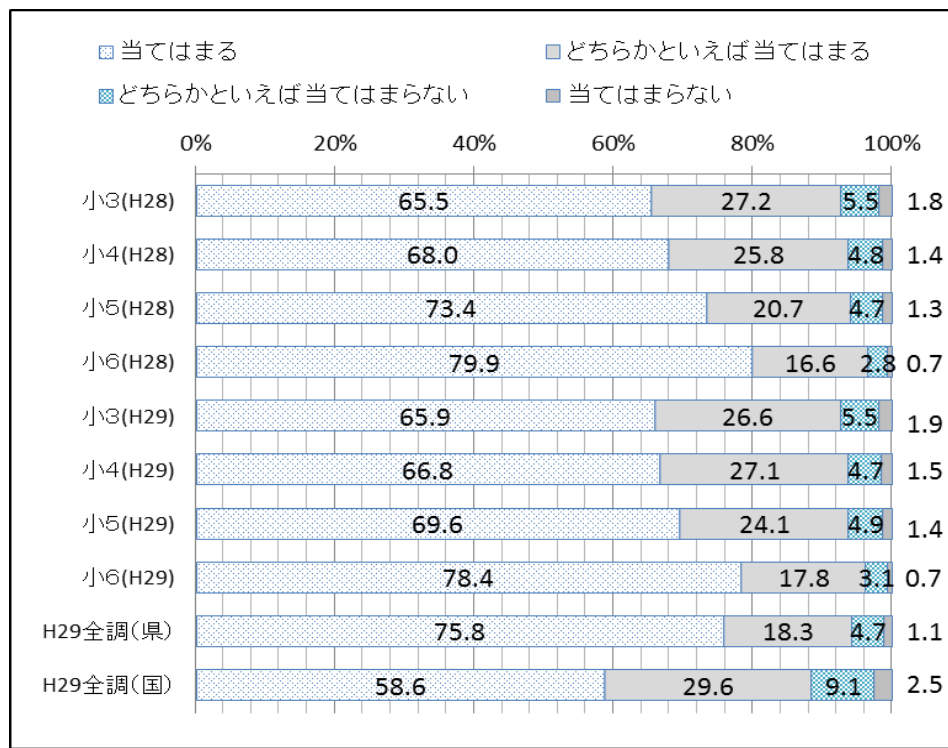
【質問②】学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



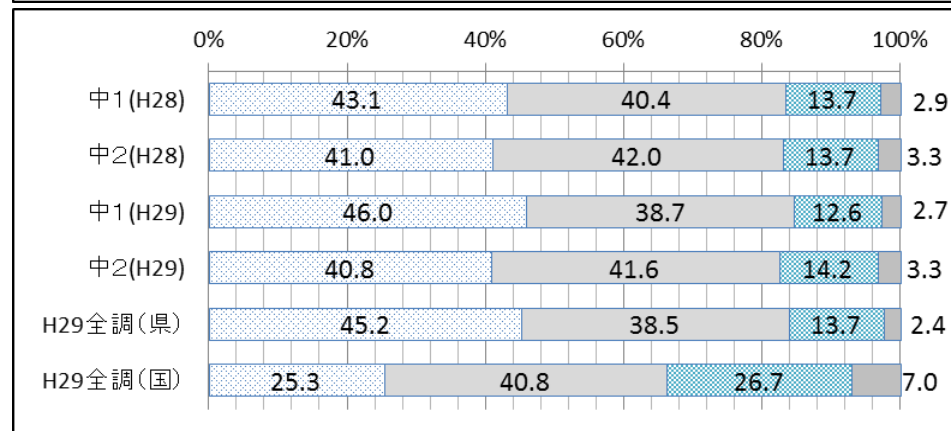
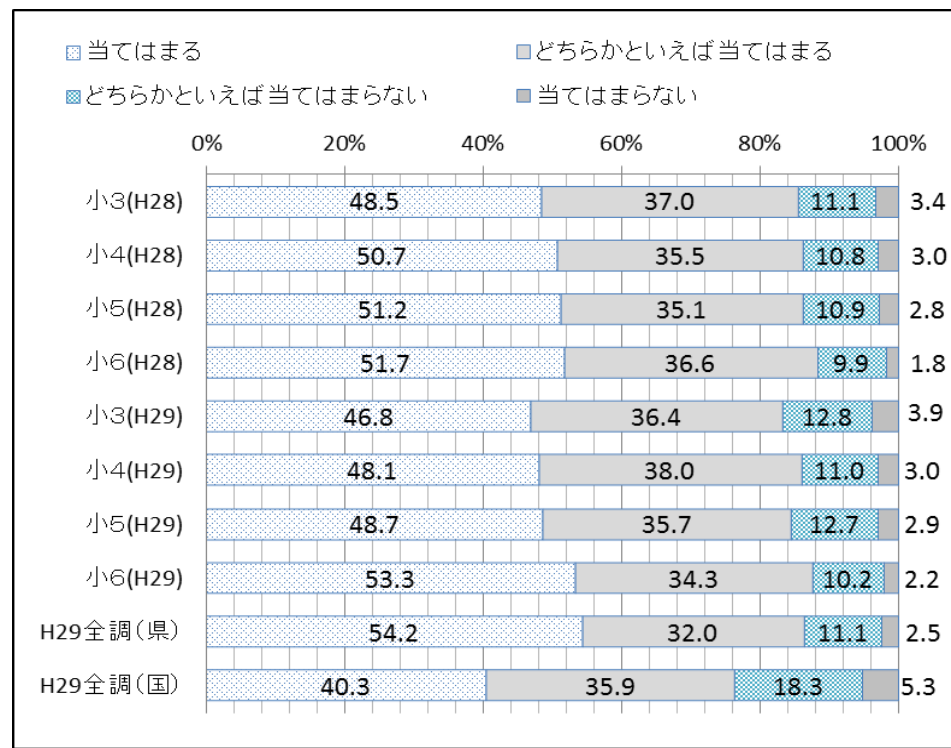
【質問③】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



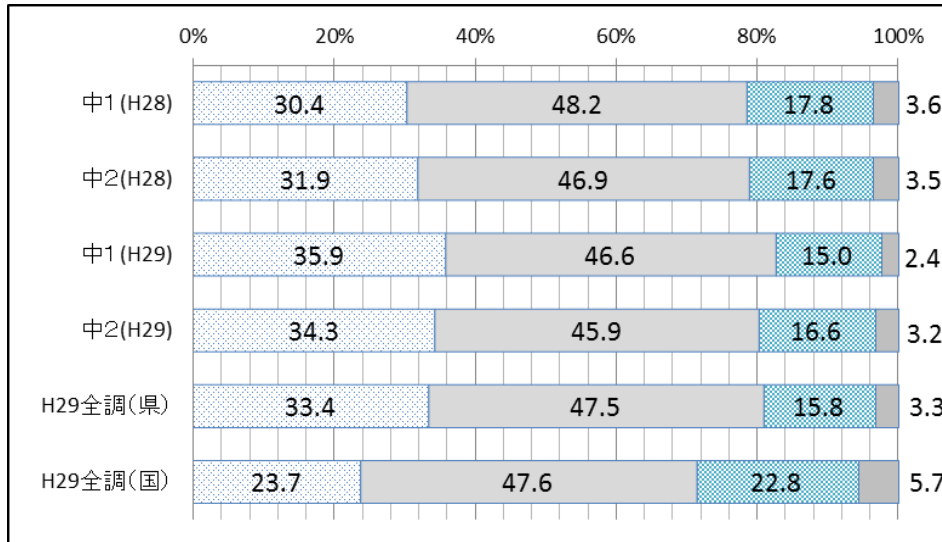
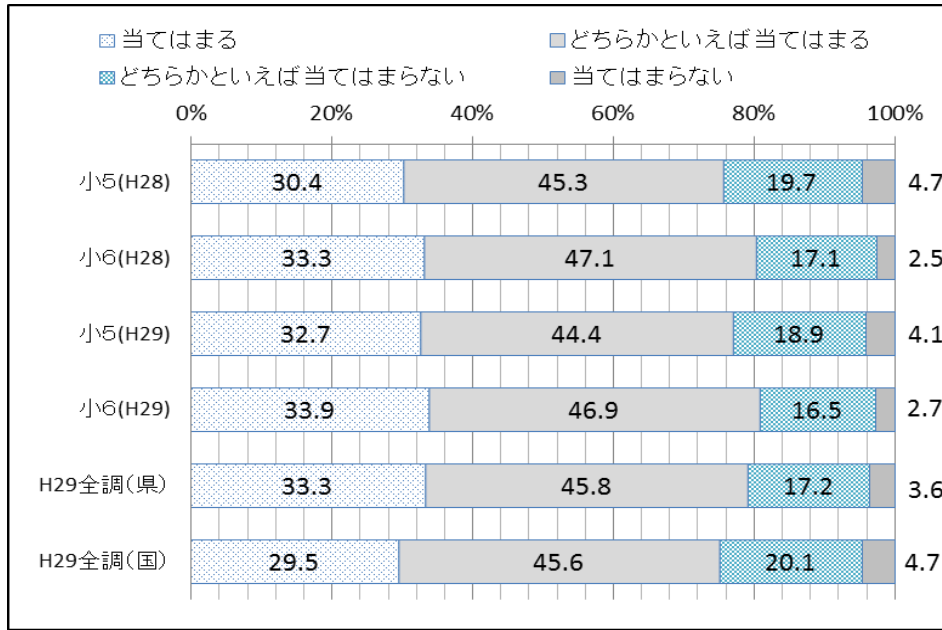
【質問④】授業の中で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。



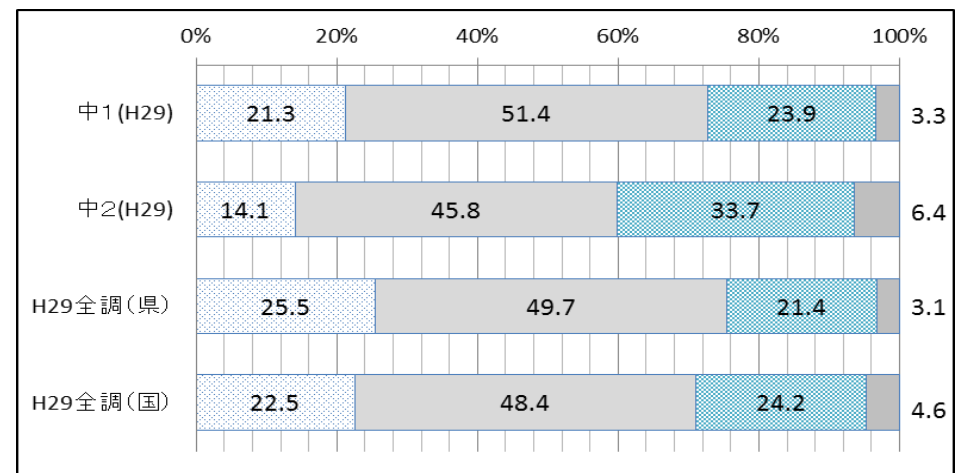
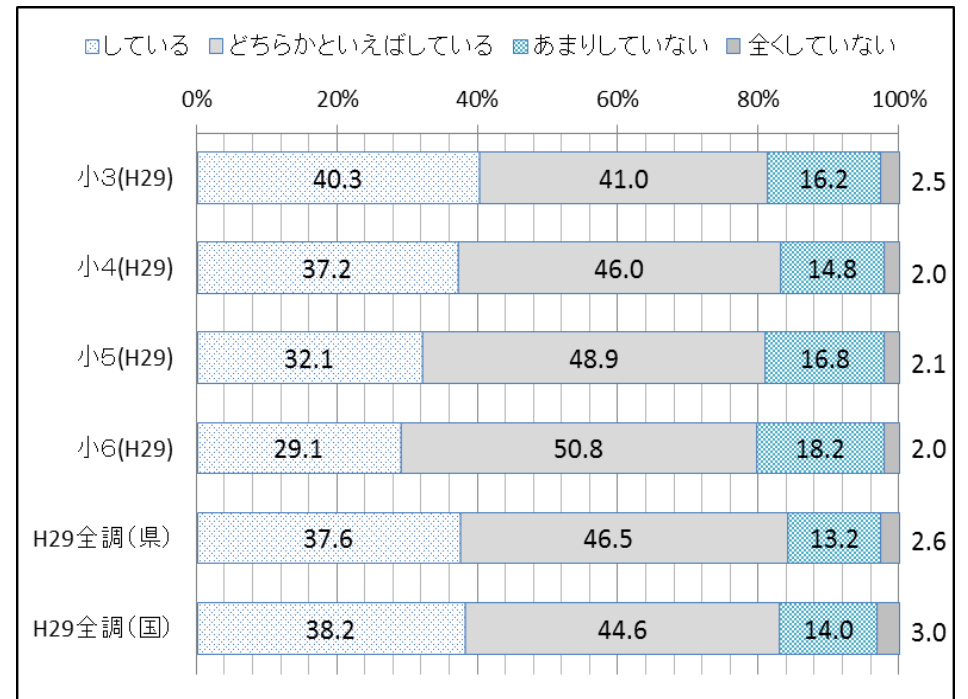
【質問⑤】授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。



【質問⑥】授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立ててその解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



【質問⑦】授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか。



高校生の就職内定状況・就職支援について

1 平成30年3月新規高等学校等卒業予定者の求人・求職・就職内定状況

平成29年10月末日現在 (山口労働局調べ)

項目 \ 性別		合計	男子	女子	前年同期比
A 求人数(人)	県内安定 所受理数	(5,235) 5,662			8.2%
	県内就職 希望者数	(2,541) 2,452	(1,475) 1,470	(1,066) 982	▲3.5%
B 求職者数 (人)	県外就職 希望者数	(641) 601	(468) 449	(173) 152	▲6.2%
	合計	(3,182) 3,053	(1,943) 1,919	(1,239) 1,134	▲4.1%
C=A/B 求人倍率(倍)		(1.65) 1.85			0.20ポイント
D 就職 内定者数 (人)	県内 就職者数	(2,182) 2,187	(1,311) 1,342	(871) 845	0.2%
	県外 就職者数	(608) 582	(446) 443	(162) 139	▲4.3%
	合計	(2,790) 2,769	(1,757) 1,785	(1,033) 984	▲0.8%
E=D/B 就職 内定率 (%)	県内就職	(85.9) 89.2	(88.9) 91.3	(81.7) 86.0	3.3ポイント
	県外就職	(94.9) 96.8	(95.3) 98.7	(93.6) 91.4	1.9ポイント
	合計	(87.7) 90.7	(90.4) 93.0	(83.4) 86.8	3.0ポイント
F 県内・県外 就職内定 比率 (%)	県内就職	(78.2) 79.0	(74.6) 75.2	(84.3) 85.9	0.8ポイント
	県外就職	(21.8) 21.0	(25.4) 24.8	(15.7) 14.1	▲0.8ポイント

(注) 1. () 内は昨年同期の数値である。

2. 求人数【A欄】は、山口県内の公共職業安定所で受理した求人数である。

3. 求職者数【B欄】は、学校又は公共職業安定所の紹介を希望する者の数である。

4. 求人倍率【C欄】は、Aの求人数/Bの求職者数(合計)である。

5. 県内・県外就職比率【F欄】は、就職内定者数【D欄】の合計に対する県内・県外就職内定者数の比率である。

2 県立高等学校等における支援

(1) 県内就職の促進

《教育庁・商工労働部・総務部のメンバーからなるプロジェクトチームを設置》

県内就職の現状と課題についての共通認識の下、県内就職を総合的かつ一体的に促進

- 県内就職比率の低い岩国、下関、萩地区へチーフ就職サポーターを配置
- 求人確保促進月間の企業訪問による企業情報を各学校に提供
- YYジョブナビやものづくり企業バンク等の企業情報閲覧サイトを紹介

(2) 今後の取組

- 就職未内定者への支援（県内企業情報の提供）
- 進路に対する意識調査
- 就職サポーター等による個別面談（2年）
- 県内企業情報の提供（企業PR動画、山口業界マップ）

3 県立特別支援学校における支援

(1) 高等部卒業予定者の進路希望及び内定状況

平成29年10月末日現在（特別支援教育推進室調べ）（ ）内は昨年度10月末

	希望者数	内定者数	内定率	対前年10月末比
進学	(12) 12	(2) 1	(16.7%) 8.3%	▲8.4ポイント
就職	(76) 73	(17) 15	(22.4%) 20.5%	▲1.9ポイント
福祉施設	(157) 161	(36) 34	(22.9%) 21.1%	▲1.8ポイント
在宅	(9) 6			

(2) 平成30年3月高等部卒業予定者への支援

ア 現場実習の継続実施による進路指導

- 就職に向けた企業ニーズや現場実習の評価を活用した指導内容等の改善
- 主体的な進路選択に向けて、生徒の希望や適性と企業ニーズとのマッチングを図ることを目的とした現場実習を適宜取り入れる等進路指導を積極的に実施

イ 関係機関との連携強化による就職支援

- ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター等との連携強化
- 労働政策課との連携強化
- 未充足求人の活用による、生徒の希望や適性と企業ニーズとのマッチングを促進

意見交換

番号	件 名	主 管 課
1	学校における働き方改革について	教 職 員 課

学校における働き方改革の推進について

現状

◆文部科学省勤務実態調査（H28年）

		1日当たりの勤務時間			時間外月80時間以上の割合
		H18	H28	増減	
小学校 教諭	平日	10時間32分	11時間15分	+ 43分	33.5%
	土日	18分	1時間07分	+ 49分	
中学校 教諭	平日	11時間00分	11時間32分	+ 32分	57.2%
	土日	1時間33分	3時間22分	+ 1時間49分	

- H18年度と比べ、小・中学校とも勤務時間が増加している。
- 過労死ライン(月80時間上)を超える割合が、中学校約6割、小学校3割以上
- 中学校では土日の部活動の時間が倍増

◆本県の現状（H29年4月～7月）

	月平均 時間外業務時間	時間外業務時間 月80時間以上の人数・割合	
		人数	割合
小学校	47.7時間	391人	9.2%
中学校	66.7時間	753人	29.5%
高等学校等	62.6時間	631人	26.4%

- 中・高校では、時間外が月60時間を超えている。
- 過労死ラインを超える割合が小学校で約1割、中学校では約3割、高校では2割以上
- 時間外の主な要因は、小学校で授業準備、中・高校では部活動

課題

- ・ 学習指導などの本来担うべき業務に集中できる環境の整備
- ・ 教員の長時間勤務の是正
- ・ 新学習指導要領への対応

本県の取組①

◆業務改善目標の設定 (H29. 3)

平成29年度からの3年間で教員の時間外業務時間を30%削減

◆部活動の休養日等の設定 (H29. 3)

- ・週1日以上休養日設定
- ・月1回以上は土・日に休養日設定
- ・活動時間は、平日2～3時間、土日は3～4時間以内

本県の取組②

◆業務改善プロジェクトチームの設置 (H29. 4)

- ・学校現場の要望・ニーズの把握
 - 小・中・県立学校あわせて約350名の教職員にアンケート
 - 中学校2校、高校1校を訪問し、約30名の教職員と意見交換
 - 校長会や庁内職員との意見交換

本県の取組③

◆業務改善モデル事業の実施 (H29. 6～)

- ・部活動指導員の配置 (宇部市)
 - 7中学校へ10名(部)の配置
 - 指導時間: 20時間/月
- ・業務アシスタントの配置 (美祢市)
 - 6中学校へ4名の配置
 - 勤務時間: 84時間/月

国の動向

- ・学校における働き方改革に関する緊急提言(8月)
- ・働き方改革に関する総合的な方策・中間まとめ(12月)

学校における働き方改革の実効的かつ総合的な取組の推進

柱1 業務の効率化

柱2 勤務体制等の改善

柱3 学校サポート・スタッフの配置

- ◇持続可能な学校指導・運営体制の構築
- ◇質の高い学校教育の維持・向上
- ◇教員のワーク・ライフ・バランスの実現

柱 1 業務の効率化

- ・ 教員の本来担うべき業務の明確化
- ・ 事業・校務の総点検、仕分け・精選
- ・ ICTの活用
(校務支援システムの導入等)

柱 2 勤務体制等の改善

- ・ 部活動の休養日・活動時間の徹底 (※1)
- ・ 長期休業中の学校閉庁日の設定 (※2)
- ・ 時間外の留守番電話対応 (※3)
- ・ 管理職等のマネジメント研修の充実

柱 3 学校サポート・ スタッフの配置

- ・ 部活動指導員 (※1)
- ・ 教員の事務補助等を担当する業務アシスタント

※1 部活動

- 休養日 : 週1日以上
- 活動時間 : 平日2～3時間以内
土日3～4時間以内
- 単独で部活動の指導や大会引率が可能

【これまでとの変更点】

- ・ 実施日数、時間の短縮
- ・ 教員ではない指導者による単独指導

※2 学校閉庁日

- 8月中旬の3日間程度を予定

【これまでとの変更点】

- ・ 期間中、外部との電話・来客対応なし
- ・ 課外授業や部活動等は、原則として実施なし

※3 留守番電話対応

- 平日の夜間、土日に実施

【これまでとの変更点】

- ・ 平日は一定時刻以降、土日は終日、電話対応なし

意見交換のポイント

- 3つの柱に基づく「働き方改革」の在り方について、幅広く御意見をいただきたい。

- 以下の取組については、特に保護者や地域の視点での御意見をいただきたい。
 - ・「部活動の休養日・活動時間の徹底」
 - ・「部活動指導員の配置」
 - ・「学校閉庁日の設定」
 - ・「留守番電話による対応」